

水上町における土砂災害に対する取り組み - 災害による犠牲者ゼロを目指して -

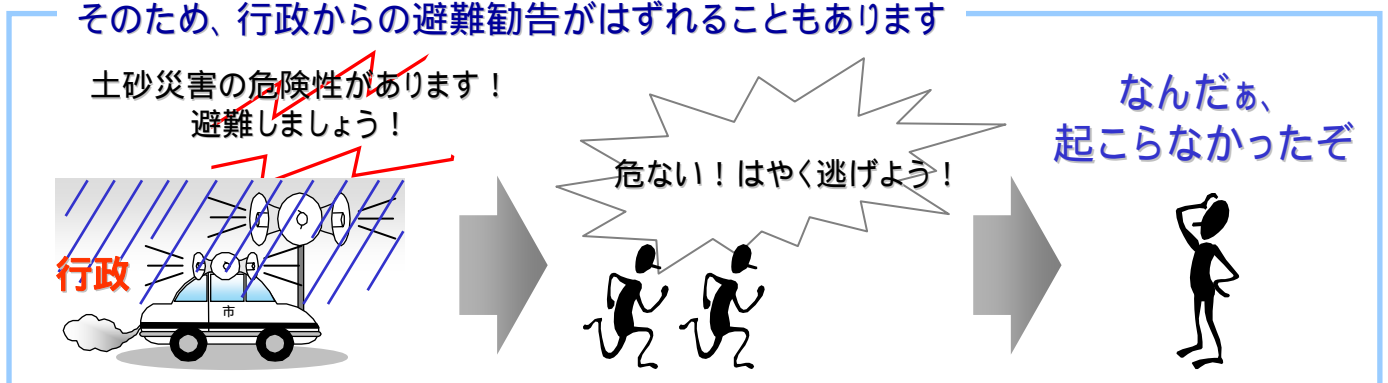
群馬大学工学部建設工学科
災害社会工学研究室

- 取り組みの目的 -

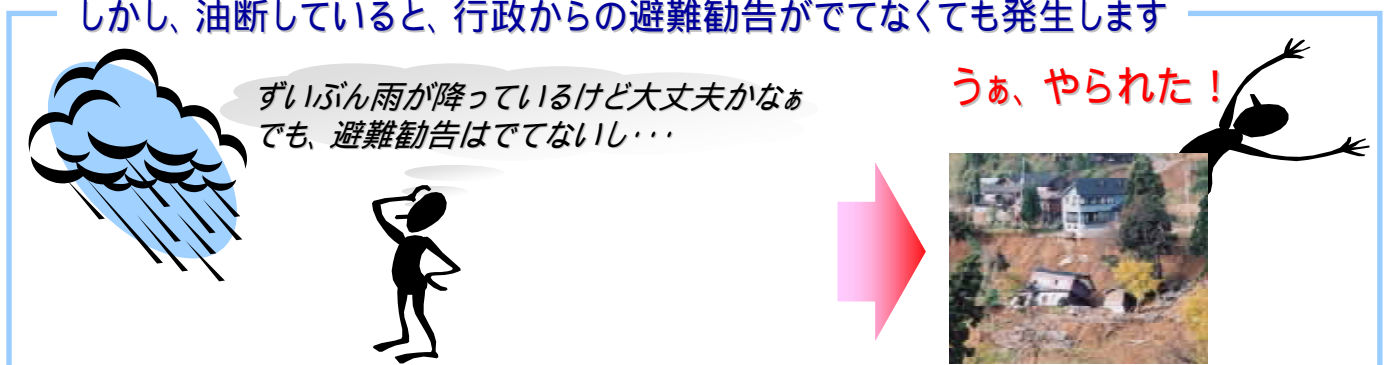
土砂災害は、我が国における自然災害による**犠牲者の過半数を占める**大変深刻な災害です。私たちの住む**群馬県にも1万5千箇所の土砂災害危険箇所**があります。

土砂災害に対して備えるうえで、他の自然災害と比べてとても難しい点の1つに、『**普遍的な予兆現象が見られない**』ことが挙げられます。

そのため、行政からの避難勧告がはずれることもあります



しかし、油断していると、行政からの避難勧告がでなくても発生します

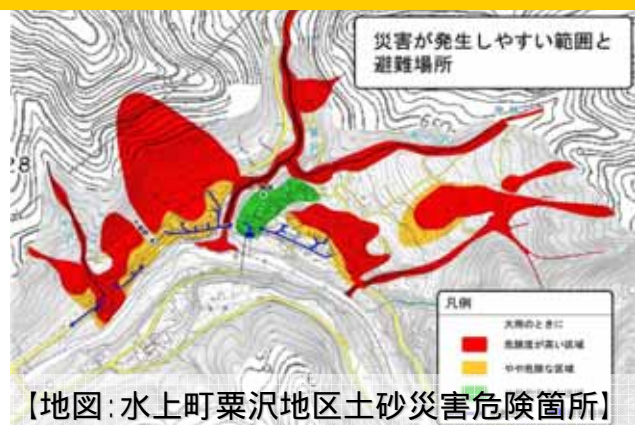


そこで、行政からの情報に頼らずに、地域住民の皆さんの自主的な判断で避難することができるような仕組みづくり（**自主避難体制の確立**）をお手伝いするような取り組みを実施しました。

具体的には、定期的に防災懇談会を開催し、(1)土砂災害防災教育を行い、(2)避難するための道具として、地域の防災マップを作成しました。

- 対象地域の概要 -

この取り組みは、群馬県水上町栗沢地区（32戸）を対象に行っています。栗沢地区は、最近では平成10年と平成14年に土砂災害の被害を受けている地域です。



- 懇談会における防災教育の6つのポイント -

この取り組みでは、住民の皆さんと懇談会でお話する際に、以下の6つのポイントを理解してもらいながら、自主避難体制の確立を目指しました。

1) 相手を知り、己を知る

土砂災害に対する深い現象理解を促すとともに、いざ危険な状況になったとしてもなかなか避難することができない人間の心理特性を知ってもらう

2) 砂防施設（ハード施設）に対する過剰な依存心の解消

ハード施設には必ず想定規模があり、その想定規模以上の土砂災害が発生した場合には、ハード施設だけの対策には限界があることを理解してもらう

3) 行政からの情報に対する過剰な依存心の解消

土砂災害の発生を正確に予測することは難しいので、行政からの避難勧告を待たずに、自分たちで避難することが必要であることを理解してもらう

4) 自助、共助の必要性の認識

災害対応は、自分のことは自分でやること（自助）が基本であり、自分一人では避難することができない人（避難困難者）には、地域みんなで助け合うこと（共助）が必要であることを理解してもらう

5) 住民の知識の共有化

以上のような土砂災害・防災対応に対する理解を促した上で、自主避難のための道具を作成する。この取り組みでは、過去の経験や伝承などによって、住民の皆さんが持っている地域の土砂災害に関する知恵（予兆現象など）をもとに防災マップを作成し、知識の共有化を図る

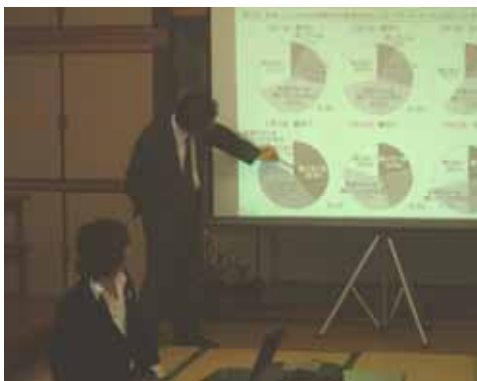
6) 住民による自主避難体制の確立

土砂災害発生危険時には、防災マップの情報をもとに、地域住民みんなでいくつかの予兆現象を見つけたら、地域住民みんなで自主的に避難を開始するという、ルールをつくった

- 防災懇談会の開催 - 住民の皆さんと一緒に防災マップを作りました

平成16年5月から計5回の防災懇談会を開催しました。懇談会では、上記に記したような内容を理解してもらう防災教育や、地域の危険箇所を見て回る現地視察、そして防災マップづくりを行いました。

防災マップは、栗沢地区の全世帯に平成17年3月に配布することができました。



【調査結果の報告】

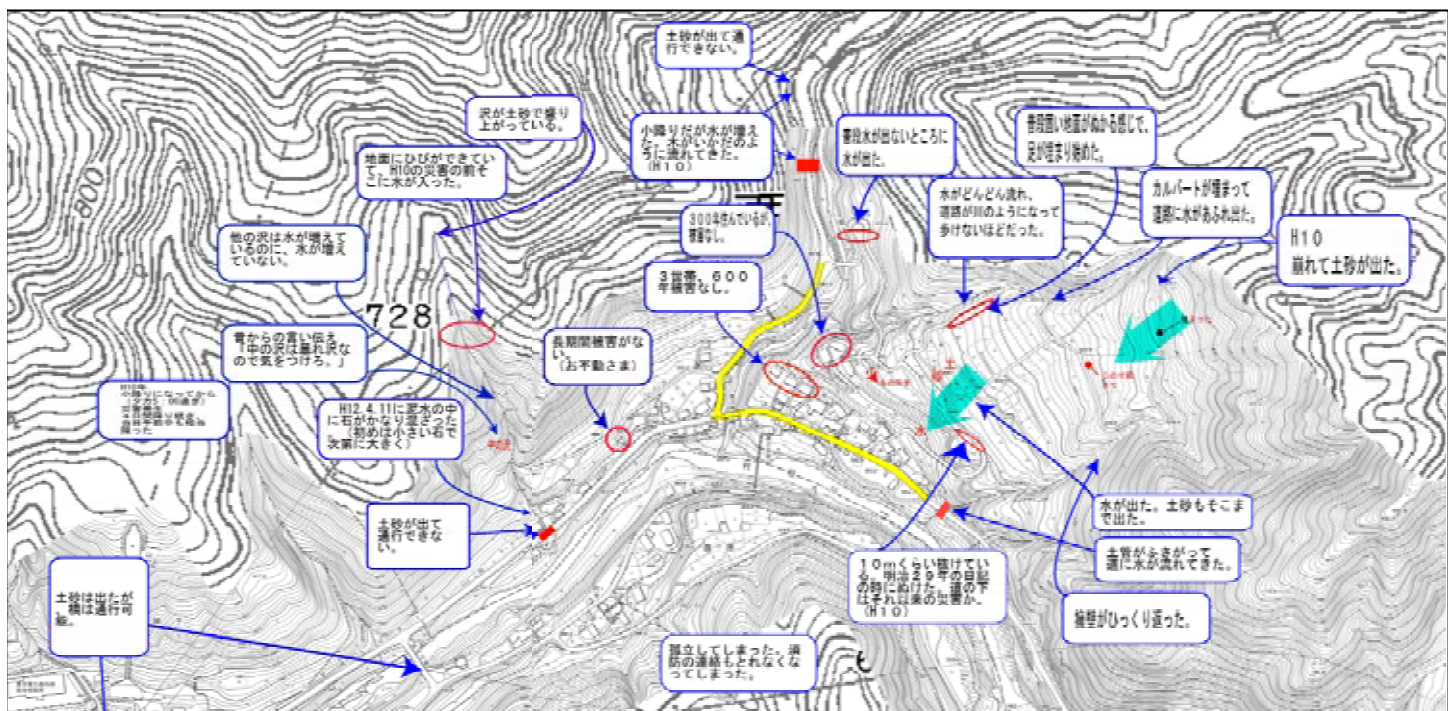
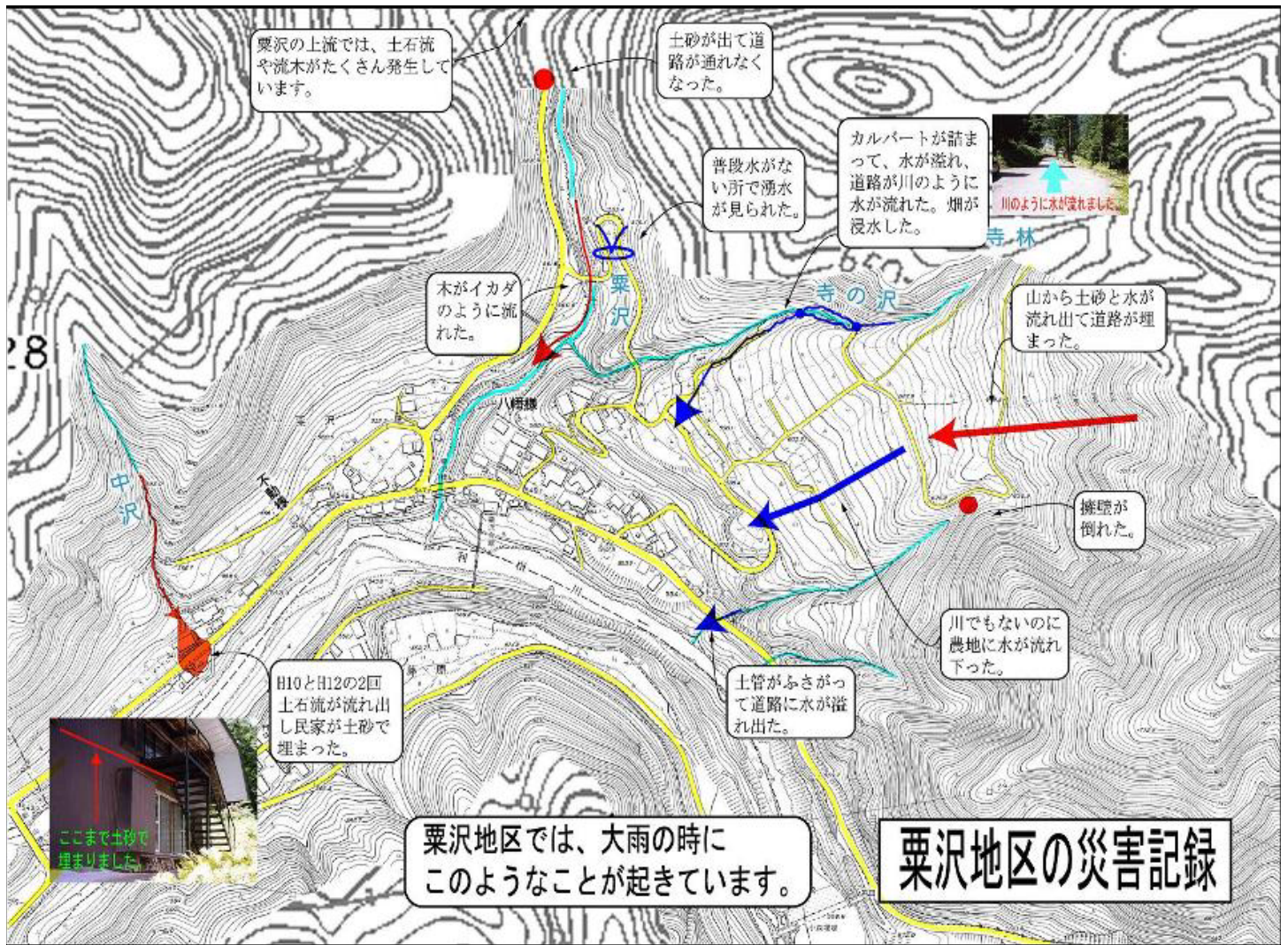


【現地調査】



【ハザードマップの作成】

- 防災マップ - 栗沢地区で発生した災害の記録





- 防災マップを用いた自主避難体制の確立 -

できあがった防災マップを活用した、土砂災害発生危険時における**自主避難ルール**を決めました。

